

12年一貫教育を通して 世界のトップリーダーに必要な 「心」「知性」「国際性」を育てる

BUNRI'S 西武学園文理小学校

校長
飛田 浩昭 先生



Bear King Hall (体育館・講堂)



人工芝グラウンド

緑豊かな武蔵野台地にキャンパスを構える西武学園文理小学校は、文理中学・高等学校へとつながる12年一貫教育を通じて、日本人としてのアイデンティティを持つ国際人の育成に努めています。学校生活全般を通じて浴びる英語のシャワーや、5・6年生の海外研修などで国際感覚の養成に力を入れる一方、日本の伝統文化を学ぶ機会も豊富です。「さまざまな経験を自己肯定感を高めてほしい」と話す校長の飛田浩昭先生。興味・関心を育て、視野を広げる多彩な教育が、子どもたちの可能性を無限に広げてくれます。

授業も朝の会も給食時も 英語のシャワーを浴びる環境

西武学園文理小学校では、「心を育てる」「知性を育てる」「国際性を育てる」の三つを教育の柱として、世界で活躍できるトップエリートの子育てを目指しています。

まず「知性」と「国際性」を育てるものとして力を入れているのが、英語教育です。その基本は、英語以外の教科も英語で教えるイマージョン教育。英語の授業は1年生から6年生まで週に2時間ありますが、音楽・図工・体育・情報でも、計週11時間、外国人講師が入って英語を使った授業を行っています。

これにより、子どもたちは年間385時間、英語のシャワーを浴びることになります。登校時や給食の時間も英語に触れるほか、休み時間の放送や児童集会なども、英語と日本語で話します。私も朝礼は英語で始めます。このように「日中英語に触れる環境があるので、子どもたちは自然に英語を使えるようになります。

4年生以上では、「話す」「聞く」だけでなく、「読む」「書く」も含めた英語の4技能がバランス良く身につくように、授業を組み立てています。4技能を高めること

によって、英語検定にもチャレンジできるようにします。6年間で3級取得の力がつき、なかには準2級を取得して卒業する子どももいます。

段階的な準備を重ねて 5・6年次には海外研修へ

学んできた英語がどの程度通じるのか、第三者の評価が得られるのが5・6年生で実施している海外研修です。

5年生では16日間の「イギリス短期留学」があります。ここでは、世界各国から集まる同年代の子どもたちと生活を共にしながら英語を学びます。イートン校、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学も訪問します。以前、イートン校のキャンパスツアーに行った際、終了後に「あの先生の英語、すくすくすてき」と言う子がいて驚いたことがあります。イートン校の先生の英語は、私もとてもきれいな英語だと思います。子どもたちにも発音の美しさが分かるのだと感心しました。毎日の英語のシャワーが効いているなと思いました。

6年生では約1週間の「アメリカ研修」に出掛けます。ポストンとニューヨークを訪問し、現地の生徒たちと交流を深めます。ハーバード大学や国連本部なども訪問します。国連では職員

の方が英語で国連の仕組みや活動内容のほか、SDGsについても話してくれます。国連本部で直接SDGsについて学ぶことにより、日本でも言われているSDGsが世界でもとても大事なことなのだと思えると思います。

なかには、5年生で16日間も海外に行くのは心配、と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、本校では1年生から、段階的に日数を増やしながら宿泊行事の経験を積み重ねていきます。4年生では北海道に行きますが、飛行機に乗るほか、長時間のバス旅行を経験するなど、イギリス・アメリカ研修の事前学習になるようプログラムを組んでいます。また海外研修の費用については、すべて年間の授業料の中に含まれているので、安心ください。ただ、どの学校も同じだと思いますが、



イートン校訪問でラングラーに記念撮影



同世代の外国人と交流し本場を体験する



文理イマージョンで、英語に触れる時間は週11時間以上



国際社会で活躍するために、交流の場を多く設けている